

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤	
専門科目	専攻実技(古楽)Ⅰ									●		●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅱ									●		●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅲ									●	●	●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅳ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅠ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅡ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅢ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅰ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅱ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅲ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅳ									●	●	●	●		
	古楽通奏低音実習Ⅱ									●		●	●		
	古楽通奏低音実習Ⅲ									●		●	●		
	学内演奏									●		●	●		
	卒業演奏									●		●	●		
	西洋音楽史										●				
	和声初級									●					
	和声中級									●					
	古楽文献研究									●	●		●		
	音楽リサーチ法									●	●		●		
	対位法									●			●		
	ソルフェージュ A									●					
	選択科目	古楽器概論#1 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#2 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#3 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#4 集中講義									●	●	●	●	
		副科オルガン									●		●	●	
		古典舞踏 集中講義									●	●			
		古典舞踏Ⅰ									●	●			
		古典舞踏Ⅱ									●	●			
		鍵盤音楽史										●			
		古楽ソルフェージュ									●		●	●	
		和声上級									●			●	
古楽アンサンブルⅠ										●	●	●	●		
古楽アンサンブルⅡ										●	●	●	●		
古楽アンサンブルⅢ										●	●	●	●		
ソルフェージュ B										●			●		
共通科目	一般教養科目										●				
	専門基礎科目										●				
	外国語科目													●	

古楽専攻の学生は「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者」となるべく、以下のような実践的な授業を受講することができます。

実技科目

(1)個人レッスンを中心とした奏法の研究と演奏解釈
 専攻実技の個人レッスンでは、それぞれの学生の資質や習熟度に合わせた授業が行われます。楽器の構造や性能を理解し、合理的な奏法を探究します。様式感を大事にしてさまざまなレパートリーに取り組み、説得力のある演奏を課題として、勉強会「研究発表」(ディプロマポリシー①②③④)や学年末試験、4年次の「学内演奏」「卒業演奏」などを通じ、ソロ奏者としての表現力を磨いていきます。(ディプロマポリシー①③④)

(2)3つの「古楽アンサンブル」授業
 古楽専攻ではアンサンブル授業を重要視しています。専攻の違う講師がペアとなった3つのクラスに参加し、学生同士で組んだアンサンブルにより、互いの役割を尊重しコミュニケーションを図りながら楽曲を仕上げる経験を積みます。専攻外の先生からのアドバイスを受けることができるとともに、幅広いレパートリーを体験することのできる貴重な機会です。(ディプロマポリシー①②③④)

カリキュラム

毎週一コマの個人レッスンを基軸に、西洋音楽を学ぶものの基礎となる「ソルフェージュ」「和声」(ディプロマポリシー①④)、「西洋音楽史」(ディプロマポリシー②)、「外国語科目」(ディプロマポリシー⑤)に加え、古楽演奏家としての基礎を形作る「通奏低音実習」「副科古楽」「古楽アンサンブル」を必修として学びます。さらには「古楽文献研究」「対位法」「古楽器概論」「古典舞踏」「古楽ソルフェージュ」などの科目を通して、理論や知識と実践をつなげることを学びます。(ディプロマポリシー①③④)。
 またそのほか、国内外の演奏家や研究者を招いて、様々なレパートリー・テーマの下でのワークショップやマスタークラスを体験する機会も設けています。

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門科目	専攻実技(古楽)Ⅰ									●		●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅱ									●		●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅲ									●	●	●	●		
	専攻実技(古楽)Ⅳ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅠ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅡ									●	●	●	●		
	古楽アンサンブルⅢ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅰ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅱ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅲ									●	●	●	●		
	古楽研究発表Ⅳ									●	●	●	●		
	古楽通奏低音実習Ⅰ									●		●	●		
	副科Cemb(初級)									●		●	●		
	学内演奏									●		●	●		
	卒業演奏									●		●	●		
	西洋音楽史										●				
	和声初級									●					
	和声中級									●					
	古楽文献研究									●	●		●		
	音楽リサーチ法									●	●		●		
	対位法									●			●		
	ソルフェージュ A									●					
	選択科目	古楽器概論#1 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#2 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#3 集中講義									●	●	●	●	
		古楽器概論#4 集中講義									●	●	●	●	
		古典舞踊 集中講義									●	●			
		古典舞踊Ⅰ									●	●			
古典舞踊Ⅱ										●	●				
室内楽史											●				
古楽ソルフェージュ										●		●	●		
和声上級										●			●		
古楽アンサンブルⅠ										●	●	●	●		
古楽アンサンブルⅡ										●	●	●	●		
古楽アンサンブルⅢ										●	●	●	●		
副科古楽実技										●		●	●		
ソルフェージュ B									●			●			
共通科目	一般教養科目										●				
	専門基礎科目										●				
	外国語科目													●	

古楽専攻の学生は「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者」となるべく、以下のような実践的な授業を受講することができます。

実技科目

(1)個人レッスンを中心とした奏法の研究と演奏解釈
 専攻実技の個人レッスンでは、それぞれの学生の資質や習熟度に合わせた授業が行われます。楽器の構造や性能を理解し、合理的な奏法を探究します。様式感を大事にしてさまざまなレパートリーに取り組み、説得力のある演奏を課題として、勉強会「研究発表」(ディプロマポリシー①②③④)や学年末試験、4年次の「学内演奏」「卒業演奏」などを通じ、ソロ奏者としての表現力を磨いていきます。(ディプロマポリシー①③④)

(2)3つの「古楽アンサンブル」授業
 古楽専攻ではアンサンブル授業を重要視しています。専攻の違う講師がペアとなった3つのクラスに参加し、学生同士で組んだアンサンブルにより、互いの役割を尊重しコミュニケーションを図りながら楽曲を仕上げる経験を積みます。専攻外の先生からのアドバイスを受けることができるとともに、幅広いレパートリーを体験することのできる貴重な機会です。(ディプロマポリシー①②③④)

カリキュラム

毎週一コマの個人レッスンを基軸に、西洋音楽を学ぶものの基礎となる「ソルフェージュ」「和声」(ディプロマポリシー①④)、「西洋音楽史」(ディプロマポリシー②)、「外国語科目」(ディプロマポリシー⑤)に加え、古楽演奏家としての基礎を形作る「通奏低音実習」「副科古楽」「古楽アンサンブル」を必修として学びます。さらには「古楽文献研究」「対位法」「古楽器概論」「古典舞踊」「古楽ソルフェージュ」などの科目を通して、理論や知識と実践をつなげることを学びます。(ディプロマポリシー①③④)。
 またそのほか、国内外の演奏家や研究者を招いて、様々なレパートリー・テーマの下でのワークショップやマスタークラスを体験する機会も設けています。

古楽研究分野では、学部の3専攻（チェンバロ、リコーダー、バロックヴァイオリン）に加え、バロック声楽、バロックチェロ、フォルテピアノ、バロックオルガンを加えた7専攻に分かれ、声楽と器楽が共に学ぶ特別な環境の中で、専攻のみにとらわれない包括的な音楽の理解を目指します。演奏技術や音楽表現を磨くことはもちろん、言語と音楽の関係、より精度の高いアンサンブル力を身につけることを意識して、専攻レッスン、古楽アンサンブル、修士リサイタルを通じて経験を深めていきます。またゼミ形式の「古楽特殊研究」「古楽分析演習」や選択科目の「古楽文献研究」「音楽リサーチ法」を通じて、自らの演奏家としての問題意識を客観化し、広く共有していくための方法論を学びます。「集中講義」「特別講座」では国内外の演奏家や研究者による様々なテーマ・レパトリーの下でのワークショップ、マスタークラスを集中して受けることができます。

その他、関連知識を深めるため「原典特殊講義」、「音楽研究基礎」、「他専攻の授業科目」、「学部開設授業科目」を履修することもできます。

古楽研究分野の学位取得は、学位審査会において「演奏審査と論文審査の両方」で評価され、合格した者には、「修士（音楽）」の学位が授与されます。